

編集後記

今年の夏は例年以上に暑い日が続いています。テレビでは「命に関わる危険な暑さ」というようなオドロオドロしい表現が連日使われており、あまりの暑さに蝉の鳴く声も心なしか弱々しいように感じられます。20世紀の100年間で北半球の平均気温は1℃上昇したそうですので、われわれが「昔より夏が暑くなった」と感じるのも、単なる思い込みではないようです。スーパーコンピュータなどを用いて今後の気候変化の予測を計算する方法を「気候シミュレーション」、あるいは「気候モデリング」と呼びますが、その計算によると、今後100年でさらに5度近く平均気温が上がるのが想定されています。このような予測は、あくまでわれわれが何も対応しなかった場合のシミュレーションであり、何らかの対策が急務であることを物語っているのですが、いざ具体的な対策となると、二の足を踏んでしまいます。「地球温暖化対策のためにCO₂を削減しよう」という意見には同意したとしても、具体的に何をすればよいのかわからない。また「自分だけ対策を行っても意味がない」とか「CO₂が温暖化の原因という説は疑問だ」とか「CO₂対策によって産業の発展が損なわれる」などと自分に言い訳をしながら、結局何もしないというケースが多いのではないのでしょうか。

レベルは違いますが、ナビゲーションをはじめとしたコンピュータ支援手術についても同様のメンタリティが働いているように思います。ナビゲーションを使うことによって正確な骨切りが可能であることは誰

も否定しないわけですが、「熟練した術者が手術をすればナビゲーションは必要ない」とか「多少の骨切り角度の差は手術成績には関係ない」というような理由で、ナビゲーションの有用性を認めようとししない外科医が少なくありません。人工関節の長期成績は現在でも良好であり、ナビゲーションを使用することの有意差を示せる規模の臨床試験を行うことは困難であり、したがって「ナビゲーション使用の有無で長期的な臨床成績に有意差はない」と述べることは、おそらく現時点では正しいと思います。しかしある手術の有効性を示すためには、「プラン通りの手術」を行うことが大前提であり、プラン通りの骨切りやコンポーネント設置を可能にするツールとして、ナビゲーション（コンピュータ支援手術）の有用性を否定すべきではありません。もちろんナビゲーションやロボット手術に必要な設備投資は極めて高額ですので、すべての病院で導入することは現実的ではありませんが、その有用性を認め、プラン通り行った上で手術の成績を確認していくことは極めて重要です。本号の原稿を拝読しながらそのような感想を持ちました。

いかにせん 夏はくるしき ものなれや

衣かへても 暑さまされば

(作者不明)

～本号が出る頃には暑さもかなりおさまっていることを祈念して～

(田中 栄)

「整形・災害外科」第61巻 第10号 (9月増大号) 2018年9月1日発行 (毎月1回1日発行) 定価 (本体 4,400 円 + 税) 年間購読料金 定価 (本体 39,400 円 + 税) 〔年間13冊 (臨時増刊号、増大号を含む) の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165 [編集室直通] TEL 03 (3811) 7184 [営業部直通] FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 日本医学広告社 TEL 03 (5226) 2791
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。